

## 12 肝移植後の日常生活

### レシピエント【移植手術を受けた方】の退院後の生活

#### ① 拒絶反応

拒絶反応という言葉は非常に怖いものに聞こえるかもしれませんが、これは移植後に起こりやすい反応で、比較的頻度が高いものです。

移植をうけられた患者さんの体内の免疫機構が、新しい肝臓を外部からの異物と判断して攻撃しようとすることから起こります。拒絶反応は、移植後7～90日の間に起こることが多いです。

#### 〔症状〕

1. 発熱：38度以上の高熱
2. 腹痛：特に上腹部の痛み
3. 活気が乏しくなる・不機嫌が続く
4. 腹部が大きくなる(腹水の出現)
5. 食欲が減退する
6. 尿の色が濃くなる
7. 便の色が薄くなる
8. 体がかゆくなる
9. 黄疸(目や皮膚が黄色くなる)

拒絶反応は、感染症や血管あるいは胆管の閉塞などと鑑別が困難なことがあります。それを確認する為に、入院をして肝生検や治療が必要になる場合があります。

拒絶反応の程度によって治療法が異なります。したがって上記のような症状がある場合にはご相談いただき、必要時は救急外来に早期に受診をするようにしてください。

#### ② 感染症

移植後は拒絶反応を防ぐために免疫系を抑制する「免疫抑制剤」を服用しているため、感染症に注意が必要です。日常生活においては「手洗い」「うがい」を励行することが大切です。また感染の兆候や症状についても知っておくことが大切です。



#### 〔注意すべき兆候と症状〕

1. 発熱：38度以上の高熱
2. 咳：肺や上気道に病原体がいることを示している場合があります
3. 皮膚や傷口の異常：赤く腫れて熱をもっている  
※傷口が病原菌に感染している場合があります
4. 発疹：小児の罹りやすい発疹性疾患の可能性があります  
※麻疹、風疹、水痘、突発性発疹、溶連菌感染症など
5. 下痢・腹痛：胃腸炎の可能性があります

以上のような兆候や症状が現れたり、感染症を疑う場合には、担当医もしくはレシピエント移植コーディネーター(以下コーディネーターと略称)までお知らせください。

水痘を発症した人と接触した場合は予防投薬が必要になります。P29の(2)肝移植後に日

常生活でも気をつけるべき感染症とHPに資料がありますのでこちらをご参照ください。  
[https://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/special/for\\_recipient.pdf](https://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/special/for_recipient.pdf)

**内服薬**：バルトレックス60mg/kg/day, 最大量3000mg/day  
**内服期間**：最終接触日から14日まで

また、感染したり、感染を疑う症状があった場合、水痘を発症した人と接触した場合、定期外来の受診について必ず電話で確認してください。

### 発熱時の対応

※免疫抑制剤内服前に38度以上の高熱がある場合は、免疫抑制剤だけ内服をせず、他の内服薬は内服して下さい。

連続4回まで免疫抑制剤の内服をしないで様子を見ることが出来ますが年齢や状態に応じて個別対応が必要な可能性があります。医師・コーディネーターまでご相談ください。

### ③ 予防接種

予防接種は移植後、患者さんの状態に合わせて行います。免疫抑制剤の薬の量によって『予防接種が出来る時期』『受けることが出来る予防接種の種類』が異なります。

移植後1年経過時に感染症科でワクチン外来を受診できます。詳細はP35(4)ワクチンの項目をご参照ください。

外来受診時には必ず母子手帳を持参してください。

予防接種は必ず移植外科医師もしくは感染症科医師にご相談の上、接種してください。

- ★インフルエンザワクチンは移植後6ヶ月経過し、肝機能が安定している場合に検討します。
- ★不活化ワクチンは移植後1年経過し肝機能が安定している場合、接種を検討します。
- ★生ワクチンは移植後2年経過し肝機能が安定し免疫抑制剤が1剤になっている場合、接種を検討します。

上記目安ですので、ワクチン接種の際には医師へ確認が必要です。  
 家族全員がワクチンで防げる病気にかからないようにしましょう。



### ④内服薬

移植手術後に患者さんは何種類かのお薬を内服します。

退院前に薬剤師から薬剤指導があります。

退院後も薬について不明なこと、不安なことがありましたら、薬剤師・医師に相談・確認をするようにしてください。

#### 〔薬を吐いてしまった時〕

嘔吐などで薬を吐いたのが30分以内だったらもう一度飲ませます。

それ以上の時間が経過していた場合には、再度内服をする必要はありません。

嘔吐などで内服できない状態が続く場合は、救急外来を受診するようにしてください。